

電信課長



大臣

次官

為

588 暗

巴里議定書 十一月五日 前二五

主款

亞細亞

内田外務大臣

佐藤代理大使

歐米

二十六日 其二

大正二年一月廿六日 記録係 接受

通商

條約

情報

人事

會計

文書

平和條約

複寫済

二月廿六日 其ニ
質問ニ答ヘテ、カニス最高會議ニ於テハ
佛國ノ賠償ニ對スルカラシメシ一步ヲ讓ル
所ナカルヘキヲ聲明スルハ、約ハラス最近ニ
佛國ノ本年ニ受取ルヘキ賠償額ノ削減セラ
レタリトノ報道アリ、上院外交委員會ハ
在、趣旨ノ決議シナセリ
佛國ノ經濟復興ハ、政治復興ノ要件

ナリ故ニ此上倫敦支拂計畫ヲ變更シ佛
國ノ對独賠償額ヲ減シ又ハ白耳義ノ優
先権ヲ損傷スルシ許サス
政治經濟復興會議ニ於テ佛國ノ權
利ヲ充分尊重スヘキ明白ナル約束ヲ取
附クルニ此サレハ之ニ答ハスヘカラス、日下
交渉中ナル英佛協定ハ諸般ノ條約ニ定
メタル保障及ヒ之カ実行ヲ確保スルモノ
ナルヲ要ス云々
下院財政委員會モ十一日佛國賠償額
ノ官セラレントスルハ、申リ十二月二十四日
ノ首相ノ聲明ノ維持セラレントシテ希望

スル旨ヲ議決シタリ等々議會ノ形勢ハ
 益々内閣ヲ對シテ氣勢シテ著シク東シリ
 三以上一及二ニ著クナル諸君ハ當國諸
 新聞、論調シテ影セルモノト見ルヘク
 シバ、エコー、ド、ハ、ビ、ジ、ルナル等ハ勿論
 タムコトタシニ年政府擁護ノ立場ニ在ル新
 聞モ亦此同様ノ見解ヲ發表セリ
 但、アリアトハ十三日及前後閣議ニ臨ミ直ニ
 議會ニ於テ自任ノ改策ヲ闡明シタル後
 信任投票シ得タル辭任セリ多分閣議
 カ其ノ改策ヲ承認セカリシ結果ナルヘシ
 ト察セラル
 在政海各大使、公使、在米大使及聯盟總會代

表へ転電セリ。

複寫

電受第五八八號 暗

巴里發 大正十一年一月十二日後八、一五
本省着 十四日前五、一五

内田外務大臣

佐藤代理大使

第二六號 其ノ二

二、客年十二月二十四日「ブリアン」ハ下院ニ於ケル質問ニ答ヘテ「カンヌ」最高會議ニ於テハ佛國ノ賠償ニ對スル「ガランチー」ヲ一步モ譲ル所ナカルヘキヲ聲明シタルニ拘ラス最近ニハ佛國ノ本年ニ受取ルヘキ賠償額ノ消滅セラレタリトノ報道アリ十日上院外交委員會ハ左ノ趣旨ノ決議ヲナセリ
佛國ノ經濟復興ハ歐洲復興ノ要件ナリ故ニ此ノ上倫敦支拂計畫ヲ變更シ佛國ノ對獨賠償額ヲ減シ又ハ白耳義ノ優先權ヲ損傷スルヲ許サ

外務省

(已號用紙)

ス

歐洲經濟復興會議ニ於テ佛國ノ權利ヲ充分尊重スヘキ明白ナル約束ヲ取附クルニ非サレハ之ニ參加スヘカラス目下交渉中ナル英佛協定ハ諸般ノ條約ニ定メタル保障及ヒ之カ實行ヲ確保スルモノタルヲ要ス云々

下院財政委員會モ十一日佛國賠償權ノ害セラレントスルニ當リ十二月二十四日ノ首相ノ聲明ノ維持セラレントヲ希望スル旨ヲ議決シタリ勞々議會ノ形勢ハ益々内閣反對ノ氣勢ヲ舉ケ來レリ
三、以上一及ニ舉ケタル諸點ハ當國諸新聞ノ論調ヲ反影セルモノト見ルヘク「デバ」「エコー」「ド、バリ」「ジュルナル」等ハ勿論「タム」「マタン」等政府擁護ノ立場ニ在ル新聞モ亦略同様ノ見解

外務省

(已號用紙)

(已號用紙)

ヲ發表セリ

四、「ブリアン」ハ十二日歸着後閉議ニ臨ミ直ニ議會ニ於テ自己ノ
政策ヲ闡明シタル後信任投票ヲ待タス辭任セリ多分閉議カ其ノ政策
ヲ承認セサリシ結果ナルヘシト察セラル
在歐洲各大使、公使在米大使及聯盟總會代表へ轉電セリ。

外務省

電信課長

大臣

次官

亞細亞

歐米

通商

條約

情報

人事

會計

文書

平和條約

複寫濟

門	6
類	3
項	
號	

仙石内政 (政府)

ニル

巴中發令二十一年一月十日五
本有著令二十一年一月十日五

田外務大臣 佐藤臨時代理大使

黄之口號

アリアシニ内閣辭職ト同時ニ大統領ハ
上下兩院議長ト協議ト上即日トア
シカレニ内閣組織ヲ委屬シテ
アシカレハ十日内閣組織ヲ承諾シ
目下閣員ニ選擇中ナリ新内閣中
史及中央右席ノ多數ヲ基礎トシ
Radicals 少數ヲ加味シテ右席

總陸海參軍老伊

後援ノ下ニ成立スル模様ナリ
ヨリヨリ十日日巴中著大統領及
カレト會談スル

複寫

電受第六六八號 平

巴里發 大正十一年一月十四日 后五、一五
本省着 十五日 后三、一五

内田外務大臣 佐藤臨時代理大使

第三四號

「ブリアン」内閣辭職ト同時ニ大統領ハ上下兩院議長ト協議ノ上即
日「ポアンカレ」ニ内閣組織ヲ委囑シタリ「ポアンカレ」ハ十
三日内閣組織ヲ承諾シ目下閣員選擇中ナリ新内閣ハ中央及中央右黨
ノ多數ヲ基礎トシ之ニ radiaux ノ少數ヲ加味シテ右黨ノ後援ノ下
ニ成立スル模様ナリ「ロイド、ジョージ」十四日巴里著大統領及「
ポアンカレ」ト會談スベシ。

(已號用紙)

外務省

門類
項
號

電信課長

大臣

次官

亞細亞

歐米

通商

條約

情報

人事

會計

文書

平和條約

要旨付了

第四號 (佛海軍)

大正五年壹月廿四日記録係接受

686(平)市俄在拉 大正五年一月一五後二。

內閣外務大臣 兼島 領事

當地諸新聞... 佛海軍... 總陸海參軍老伊

先... 佛海軍... 總陸海參軍老伊

門類
項
號

要旨付了

大臣
次官
志

電信課長

歐米
通商
條約
情報
人事
會計
文書
平和條約

688(平) 巴里條約
大正十一年一月
十日下午五時五分
内田外務大臣
佐藤臨時代理大使

第ニ五号
ブリアン十二日朝カン又ヨリ飯着閣議
ニ備ニ午後下院ニ於テ賠償及英仙協約
等最高會議ハ議題ニ付同人ノ採ル
政策ヲ陳述シタル後閣員一同ト共ニ採ル
表ヲ提出セリ委細往電ニ十六号ニ讓ル

大正十一年一月拾七日記録係接受

五又歐洲、陸運建設、官大同情ヲ蒙
ル、原名半島、陸運建設、官大同情ヲ蒙
國際的孤立地ニ隔ル
六、更ニ陸運建設、官大同情ヲ蒙
陸運建設、官大同情ヲ蒙
陸運建設、官大同情ヲ蒙
陸運建設、官大同情ヲ蒙

佐藤内政(臨時)

電信課長

大臣

次官

亞細亞

歐米

通商

條約

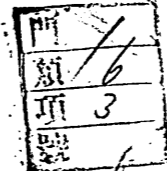
情報

人事

會計

文書

平和條約



華府令
一月十日在二、四〇

由田外務大臣

幣原大使

大正二年壹月拾八日記録係接獲

最近華府令議、加リ居リタル「カリアン」
飯田右向ニ無ク失脚シ「ホアカ」之ニ代ルハレ
トノ後通、米山ノ言論界ニ多大ノ刺激ヲ與ヘ十
三、十四日ノ諸新聞就レニ記事及社説ニ於テ盛ニ
論議シ居ル處一般ニ「ホ」ノ穩健政策ニ全情ヲ
表レ「ホ」ノ強硬政策實現ヲ歡迎セサルノ意向
ヲ表明シ二三有力新聞中「ホ」ニ於テ世界ノ大
勢ニ順應シ「ホ」ノ政策ヲ踏襲スル事ヲ然ルハレド

總陸海參軍老伊

「トホ」ニシテ後素ノ
如キ方針ヲ以テ進ム。此「ホ」ノ終ニ英白ト離反シ
全然別立ノ地位ニ陥リ「ホ」ノ不可能トナリ結局
ニ流ノ國トナルハレト極論又「ホ」ノ性行
「武斷主義中毒ノ政府ヲ現出ス」ト論シタル
モノアリ。將又今回ノ仙石政變ノ華府令議
及ホスヘキ影響ヲ就キ二三新聞紙中論議ヲ加
ヘタルモノアルニ一般ニ格別其点ニ注意ヲ拂
居ラス、
在政各大便、轉中セリ。

電信課長



大正二年五月十九日記録係接受

外務省(政府)

主款

大臣

次官

野

744 平 巴里 大正二年五月 十七日 坂田 五

要旨付了

内田外務大臣

坂田代理大使

亞細亞

歐米

通商

條約

情報

人事

會計

文書

平和條約

16
3
10

第三次 第二次 Poincaré 内閣 十九日 九、通交
立上、十九日 議會、及 綱要表、答
Presidence du conseil et affaires
étrangeres, Raymond Poincaré.
Vice présidence du conseil, justice
et services d'Alace et doctoine,
Louis Barthou (député)

總陸海參軍老伊

Antoine, Maurice Maunoury
(député)
Colonies, Albert Sarraut. (留任)
Travaux publics Yves Le Troquer.
(留任)
Guerre et Pensions, André Maginot.
(député)
Marine, Raiberti (député)
Finances, Charles de Lasteyrie
(député)
Instruction publique et Beaux-Arts,
Leon Bernard (留任)

Régions Libérées, Reichel (député)
 Travail, Albert Pagnonnet
 (sénateur)
 Hygiène et assurances, Paul
 Stranos (sénateur)
 Agriculture, Henry Cléron
 (sénateur)
 Commerce, Lucien Lion (député)
 Sous-secrétaires d'Etat,
 Présidence du Conseil, Maurice
 Colrat, (député)
 Postes et Télégraphes, Paul Lafitte

(député)
 Marine Marchande Rio (député)
 Aéronautique Militaire, Laurent
 Cognac (député)
 Enseignement technique, Gaston
 Vidal (député)

新内閣、社会党及右党より除く外上下
 両院、各派の綱目難く、於て前内
 閣と各派との内政問題、極く多岐
 右党の偏見より於て Radicaux 全般
 支持、尚難く之より視図せらる居り
 陸軍省と年金省とを併合し又四名

1
6
3

大臣 次官 電信課長
 亞細亞 歐米 通商 條約 情報 人事 會計 文書 平和條約

要旨付了

Sous-secrétaire d'Etat の署名
 新内閣、*Sous-secrétaire d'Etat*、
 全部が、内閣に在るものなり

倫敦 大正十一年一月
 内田外務大臣 林 大使

佛國全同の政変は、
 諸般の向題、
 不用意無秩序なる上、
 起し佛國輿論ヲ激成セシメ、

大正十一年拾月廿壹日記録係接受

總陸海參軍老伊

老ト英國ハ賠償問題ニモ同盟問題ニモ
佛西民ノ自尊心ヲ傷マらんカ如キ無理ナ
ル主張ヲ為スモノニアラス此ノ際佛國民ノ
心理状態ヲ充分諒解スル極メテ所
要事尤ガ同時ニ英佛同盟英政海
改造世界平和ノ動カスニカラン基礎
条件ニシテアリテ先脚ヲ以テ佛國民
ガ英佛同盟ニ反対者ノ冷淡ナル
トハ解スル得ズ英國ハ又一部佛人
ノ証元ガ如ク同盟ニ依リ *Rand Bourgain*
ヲ為スモノニ非ズ同盟ハ相互ノ利益
ノ爲メ絶対必要ニシテ対独賠償露玉

復興政海経済恢復等ハ何モ英佛
ノ完全ナル諒解ナラスバ之ヲ解決ス
ヲ得ズ吾人ハ佛國ガ英佛同盟ヲ棄テ
テ孤立政策ヲ追フニシトハ信ス然レドモ
英佛協調ノ緊要事ナルヲ力説シ佛
國民ノ現実ノ事態ヲ冷観シ商屋セシ
ホカシトシテ兼テ強硬論者ナルガ大敵
大統領トシテ西ノ執事努力メット
及最近英國討由ノ際言説ニ徴ス
ハ其對英總交推測セズカント非ズ
心主依リ更ニ示セ却テ其結果ヲ

齋ラマ可、即西國旨諒解疑惑ヲ一掃
シ名自立場ヲ明シテ其諒解ノ基
礎ヲ堅クシテ得ルニシテ其旨ヲ論
ルルニ勞働堂系其他英佛同盟ニ反
對せんニ新南ハ例ニ依リホリカレ
一
派ノ政策ハ過去ニ於テ其論議ニ依
リ既ニ明白ナリ吾人ハ斷リテ其
不合理的
要求ヲ支持スルヲ得ズ若シ佛
ニシテ孤立
主義ヲ取リ殊ニ露トノ會議ヲ拒
絶スル宣
教
ニシテ佛
ニシテ其旨ヲ論
ルルニ勞
働堂系
其他英
佛同盟
ニ反
對せん
ニ新南
ハ例ニ
依リホ
リカレ
一
派ノ政
策ハ過
去ニ於
テ其論
議ニ依
リ既ニ
明白ナ
リ吾人
ハ斷リ
テ其不
合理
要求ヲ
支持ス
ルヲ得
ズ若シ
佛ニシ
テ孤立
主義ヲ
取リ殊
ニ露ト
ノ會議
ヲ拒絶
スル宣
教ニシ
テ佛ニ
シテ其
旨ヲ論
ルルニ
勞働堂
系其他
英佛同
盟ニ反
對せん
ニ新南
ハ例ニ
依リホ
リカレ
一

論ハ既ニ
在宋名使(轉者)在歐名使(郵報者)

門	1
類	6
項	3
號	

大臣 官 次
 亞細亞 12
 歐米 3
 通商
 條約
 情報部
 人事
 會計
 文書
 平和條約

電信課長

London
 Received 11.10 am 19/1, 21

Gaimudaijin
 Tokio
 No. 61 情報

General press opinion is pleased with the choice of Briand as the French premier.

The Times remarks that his resemblance to Lloyd George is sufficient to facilitate the mutual comprehension.

The Cabinet change would not impair the Anglo-French friendship though the time is not ripe for the alliance proposed by Derby.

The Manchester Guardian doubts if Briand would follow Millerand's policy in insisting French claims on the Germans.

大正三年六月拾四日記録係接受

各口内文佛口

The Daily Telegraph says it is incorrect to say that Briand has been chosen because Leygues and Millerand have been too complacent towards the British views upon the German reparations. Britain is ready to support any practicable scheme to enforce the French rights.

The Daily Mail and the Chronicle emphasize the importance of maintaining the Anglo-French Cooperation.

The Daily news believes that Millerand and Briand are in agreement upon a foreign policy which is acceptable to the moderate opinion of Britain.

Hayashi

(已覽用紙)

大正十一年一月二十日附内田大臣宛在本邦佛國大使
來翰譯文

(「ポアンカレ」内閣組織ニ關スル件)

第九號

以書翰啓上致候陳者本使ハ本國政府ノ命ニ依リ佛蘭西共和國大統領
ハ「ブリアン」氏ヲ議長トシタル内閣ノ後繼内閣組織方ヲ「ポアン
カレ」氏ニ委ネタルコトヲ閣下ニ通報スルノ光榮ヲ有シ候
「ポアンカレ」氏ハ内閣總理大臣ト同時ニ外務大臣ノ職務ヲ兼攝致
候

本使ハ閣下ニ此通報ヲナスト同時ニ佛蘭西國ノ外交政策ハ「ポアン

外務省

(已覽用紙)

カレ」氏ノ下ニ於テモ從來同様名譽アル共同目的ノ爲ニ相共ニ鮮血
ヲ流シタル諸國民間ニ結ハレタル親密ナル關係ヲ平和確立ノ爲維持
シ且益之ヲ強固ナラシムル^様努力スルニアルベキコトヲ閣下ニ確^言
スヘキ^命命セラレ候

右申進旁本使ハ茲ニ閣下ニ向テ重テ敬意ヲ表候

一九二二年一月二十日東京ニ於テ(署名)「クロードル」

外務省

Ambassade
de la
République Française
au
Japon

Cōkyō, le 20 Janvier 1922

N° 9

普通
受第 / 發
11.1.23

要旨了

Monsieur le Comte,

主
歐
務

第
二
課

精

精

D'ordre de mon Gouvernement j'ai l'honneur
de faire savoir à Votre Excellence que M. le Président
de la République a chargé M. Poincaré de former un nou-
veau Ministère en remplacement de celui que présidait
M. Briand. M. Poincaré, avec la Présidence du Conseil,
a assumé le portefeuille des Affaires Etrangères.

En portant cette communication à la connais-
sance de Votre Excellence je suis chargé en outre de
Lui donner l'assurance que la politique extérieure de
la France continuera sous la direction de M. Poincaré à
s'inspirer des mêmes principes que dans le passé en s'
efforçant de maintenir et de resserrer encore, pour la
consolidation de la Paix, les liens si étroits noués
entre les nations qui ont versé leur sang pour la même
cause glorieuse ./.

Veillez agréer, Monsieur le Comte, les assu-
rances de ma très haute considération.

Son Excellence
Monsieur le Comte UCHIDA
Ministre des Affaires Etrangères
etc. , etc. , etc.

Clair

大正十一年一月廿一日
接收

11.1.25
3
所記

機密
受第 44 號
11.1.25

秘

警 第三課 種

海謀報第百二十九號

大正十一年一月二十三日

海軍軍令部

佛國電報(一月十六日發)

Bureau 內閣十二日解散ノ結果 Poincaré 內

閣組織ノ命ヲ受ケ昨十五日新內閣成立セリ

首相外相ヲ兼ス

陸相 Maginot

海相 Raiberti

蔵相 De Lasteyrie

陸相ハ前內閣ノ恩給大臣、海相ハ今日迄下院財政委員

員長ニシテ Deguesne 內閣ノ第三次陸相、蔵相ハ財

政界ニ人トナリ同方面ノ造詣深キ由ナリ

尚新內閣ニ於テハ恩給省陸軍省ハ合併シ Doussier

Secretariat 四及 Secret-Commissariat 廢止

セラレタリ

大正十一年一月廿五日 記 藤原 雅彦

(終)

11.1.25

1/6
3
電信課長

大臣
次官

亞細亞
歐米
通商
條約
情報
人事
會計
文書
平和條約

1009 (平) 巴黎條 大正十一年一月 三日後六日
三月後一四日
内田 外務大臣 松田代理大臣

新内閣首相ハアンカレハ氏ハ本月十九日議
會ニ於テ其施政方針ニ付大要ヲ通リ
宣言ヲ存シタリ之ニ對シ下院ハ討論ノ上
八十四對四百三十四ノ多數ヲ以テ政府ノ信
任ヲ可決セリ
現内閣ハ平和ノ條件ヲ定メタル諸條約ヲ尊
重ヲ確保スル外他意ナシ而シテ目下ノ急
務ハ財政整理、國防組織、兵役年限

總陸海參軍老伊

大正十一年一月廿五日記錄係接

短縮及社會政策的設備之ナリ財政、政
策ハ戰爭ニ依リ攪亂セラレタル財政ヲ
整理シ苛稅ヲ調節シ行政整理ヲ行フ
ニ在リ此ニ吾人如何ニ努力スルモ独逸が其
義務ニ從ヒ賠償ヲ支拂フニ非ズバ佛國
財政ノ救済ヲ確保スルコト能ハズ
今や佛國ヨリ日レテ帝國主義ヲ奉ヒ密
ニ禍心ヲ包藏スルモノ如クプロパガンダヲ
行フモノアルモ當ラズ之レ大戦ノ犧牲ト平
和ヲ贖フ如何ニ高價ナンカヲ思ハサルモノ
ノ言ナリ吾人ハ唯列國ト共ニ締結セル
條約ヲ尊重シ吾人ニ歸スルキ支拂ヲ

要するに過か
独逸の支拂不能ヲ唱ふる輸出及海外
事業ヲ獎勵シ其ノ社会ノ大ノ配者
ヲ爲シ工場ハ活動シ其ノ経済力ハ日
々發展ヲ示セリ政府ハ零落スル國民ハ
富ナリ然モ國家ノ負債ヲ保障スル全
國民ノ資産及收入ニ非ズヤ
佛國ハ政涉及世界ガ成ル可ク連シ其
困窮ヲ脱セントシ熱望スルモノ共一
般ノ経済復興ニ付テハ特ニ独逸ヲ
最初ニ攻撃シ蒙リタル佛白兩國ノ
荒廢地方ノ復活ヲ所要トス之正義ノ

指シテシテラズ世界的理解ナリ蓋シ賠償
肉題ハ後テ他ノ肉題ヲ凌駕ス若シ独
逸ガ其ノ義務ヲ怠ラバ吾人ハ先ヅ独逸
ノ各港ノ輸出ニ對シ嚴重ニシテ有效
ナル監督方法ヲ設ケザル可ラズ
独逸ノ軍備撤廢及戰爭責任者処
罰不履行ニ對シ制裁ハ常ニ之ヲ(脱)
シテ吾人ハ右不履行ハ内ハライレ左岸
ノ撤兵期向ハ未ダ開始セザルモト宣言
セントス之ノ見解ハ常ニ佛國政府ノ維
持ニ所ナリ
吾人ハ聯合諸國トシテ協諷ヲ忠實ニ保

持スルニ努メ護解ヲ招ケル事件ヲ審議
シ直ニ是レ(脱)努ム可シ平和良好ナ
ル保障ハ利害ノ共通ニ依リ生ジタ
協調即 *policy oriented* 存在、如
之也同協約ノ成立ニ對シテ佛國ハ之ヲ
歡迎シ眞實ナル同情ヲ以テ其ノ發展ヲ
見ントス
佛國政府ハ國際聯盟、(脱)
努力ヲ盡サントス其ノ旨ヲ先從來ノ成
果ハ之ガ將來ヲトスルニ足ルモノト會議
ニ付テハ吾人ハ討議ニ先立テ諸國代表
者ガ「カン」決議ノ條件ヲ承認スル中

否ヤヲ明白ニシ又諸條約ノ何レノ規定ヲモ
同會議ニ於テ左右ニ可ラサルヲ主張セ
ントス者モ右ノ保障ヲ得サル限リ吾人ハ
自由行動ヲ取ルル已ム得サルニ至ル可
吾人ハ英佛皆ニ平和確保ノ條約ガ建
ニ諒印サルヲ希望シ同條約ハ兩國ガ
全然ニ平等ノ地位ニ於テ締結サル可
又現在及將來ノ保障ヲ維持スルヲ疑
ハズ
吾人ハ吾人ニ伊太利及英國ト協議シテ
土耳古希臘等ノ爭鬪ヲ請停シ佛
土協約ノ利益ヲ實現シ歐洲ノ平和克

復ニ努力カスニ如斯クシテ吾人ハ(朕)ニ
於ケル委任ヲ果タスヲ得可シ
吾人ハ人教ノ權利ヲ爲メ吾人カ相共ニ戰
ヒ諸國殊ニ米國トノ友好關係ヲ一層
確實ニ保持セシトス
我同盟國ニ對シ直截ト友情トヲ以テ之
ニ臨ムハ勿論ナルモ佛國ノ利益擁護ノ
爲メニハ確實手ヲ用テ態度ニ出テサルヲ得ス
其是ニ付テ時高ノ重大ニ鑑ミ議會全
體ノ一致ノ援助ヲ望ムモノナリ
在歐米各大使一轉電セリ

門
6
3
項
號

大臣
次官
亞細亞
歐米
通商
條約
情報
人事
會計
文書
平和條約

文書課長

大正二年壹月廿八日發送

公信案

文書課發送

大正二年壹月廿八日發送

淨書 (吉田)

正校 (原稿)

淨書

(甲號用紙)

主 管 歐米局長

主 任 (起草大正十一年一月廿六日) 第二課

機密 第一號

大正十一年一月廿八日附

附屬書 通

受信 人名 在在印佛國大使

發信 人名 大臣

件名 ポアニカ止内閣組織通報ノ件

大正二年壹月卅日 記錄係接亭

以書簡致上及下陸者今般佛南西共和國
大統領閣下、依托ニ依リ、ポアニカ止氏ノアリ
氏ノ後ヲ承ケ新内閣ヲ組織ス且外務大臣
ノ職ヲ兼攝セラレタル事並貴國外交政策ニシテ
従前ノ方針ヲ踏襲スル事貴國政府ノ
命ニ依リ申越相致候事
本大臣ハ佛國內閣代表兼外務大臣ニ對シ教厚
ナル祝意ヲ表スルト同時ニ本大臣兼攝モ世界ノ
平和ヲ自願トシ貴我兩國ノ親善關係ヲ益シ
強固ナラシメシカガ為ニ如何ナル努力ヲモテモ
本大臣兼攝ハ右貴國內閣代表ハ所付達相煩友
並田島外務大臣ハ貴國閣下ニ向テ手書致意
表交候具

外務省

在佛國日本大使館

第四次ブリアン内閣へ在任約一ヶ年ニシテ一月十二日辭表ヲ提出
ン十五日附ニテボアンカレ内閣之ニ繼ケリ此間ニ於テブリアン首

緒言

ブリアン内閣辭職前後ニ於ケル佛國ノ政況

第一、中法實業銀行救済問題

第二、對獨賠償問題

第三、英佛協約問題

第四、歐洲經濟復興會議召集問題

第五、露西亞招請問題

第六、ブリアン内閣ノ辭職

第七、ボアンカレ内閣ト其政綱

右有

1
6
3

在佛國日本大使館

機密
受第 22 號
11.3.6

附屬書類添附

駐歐審 第三課

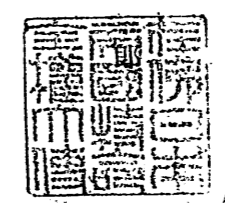
機密公第 一一一 號

大正十一年一月二十八日

在 佛

特命全權大使子爵 石井 菊次

外務大臣伯爵 内 田 康 哉 殿



ブリアン内閣辭職前後ニ於ケル佛國政況報告ノ件

本件ニ關シ別添ノ通り當館在勤青田書記官ノ調製セル報告及進達
候條御査閱相成度候 敬具

寫送付先 英、米、獨、白大使

佛國內政子爵

別紙添附

在佛國日本大使館

相カ解決ヲ試ミタル問題ハ極メテ多ク而モ有利ナル斷案ニ達シ得
タル問題甚少シ之ヲ以テ爲政家ノ罪ニ歸スルハ多キヲ他人ニ求ム
ルノ嫌アルヘク之ヲ以テ時局ノ難キニ歸センハ人爲ラ盡ササルノ
觀ヲ免レス然レ共大戦五年ノ試練ヲ經テ國策未タ平和ノ恆道ニ歸
ル能ハス内ニ財政難アリ外ニ合縱連衡ノ勢定マラサルアリ願レハ
又多事多難ノ一年タリシヲ否ム可ラス此間ニ處シテ免ニモ角ニモ
獨逸賠償問題ニ一應ノ解決ヲ與ヘ極力妥協政策ヲ執リテ英國ト接
近ノ素地ヲ作りウイスバーデン協定ニヨリテ獨逸融和ノ曙光ヲ認
メシメタル如キハ例^依今其末期ニ於テ佛土協約及海軍制限問題ノ爲
ニ英國輿論ノ離反ヲ招ケル事實アリトスルモブリアン内閣ノ功罪正
ニ相償フテ幾干ノ餘^債アリシヲ認メサル能ハス
ブリアン内閣ノ地位動搖セルコトハ既ニ大正十一年度豫算審議ノ
際ニ傳ヘラレ八月大藏大臣協定ニヨリテ藏相ノ地位將ニ危カラシ
トシワシントン會議臨席ノ爲ブリアンカ出發セントスルニ際シテ

在佛國日本大使館

モ亦議會ノ空氣甚シク險惡ナリシコト議會ニ確乎タル與黨ヲ有セ
サル内閣ノ免レ難キ弱點ナリ他方中法實業銀行救済問題ハ各種ノ
内政問題ト關連シテ閣員内ノ不和ヲ激成セルノミナラス外務省總
務長官ベルトロイカ右銀行救済事件ニ附帶スル責任ヲ負フテ辭職
セルコトハブリアン内閣ニ對スル一大危機ナリシニ相違ナシ然レ
共内閣ノ致命傷ハ賠償政策ニ伴フ内閣ノ不信任ニシテ同時ニ内閣
反對ノ氣勢ヲ煽レルモノハゼノアノ歐洲經濟復興會議ニ露獨兩國
ヲ參加セシムル件並ニ英佛協定ニ對スル佛國輿論ノ不滿ナリ而シ
テ此等ノ外交問題ハ偶々ブリアン内閣ノ對獨政策全部ニ對シ國民
ニ不安ノ念ヲ惹起セシメタリト云フヲ妨ケス以下順次ニ之ヲ略述
スヘシ

(一) 中法實業銀行救済問題

中法實業銀行ハ資本一億五千萬法ヲ以テ組織セラレタル對支企業

在佛國日本大使館

銀行ナリ同銀行ノ救済ノ成否ハ夫レ自身ニ於テ佛國ノ金融市場ニ
左迄大ナル影響ヲ與フル問題ニ非ス然レトモ同銀行ノ興亡ハ巴里
ノ大銀行ヲ圍繞スル政治家及實業家ノ勢力消長ニ大ナル關係アリ
就中借款銀行タル印度支那銀行ハ中法實業銀行ト絶ヘス競争ノ地
位ニ立テリ之ヲ以テ中法銀行ノ救済ヲ贊成スル者ト之ニ反對スル
モノトハ自ラ利害ヲ異ニスル耳ナラス内閣員ノ内ニテモ印度支那
銀行ニ關係深キ藏相ヅームール殖民大臣サローノ如キハ救済ニ冷
淡ニシテ左黨ニ接近セルブリアン及「パリ和蘭銀行」ト關係アル
ルイシヨールノ如キハ尤モ熱心ナル救済論者タル關係アリ反對黨
カ本件ヲ以テ政府ニ肉迫スルハ最モ好個ノ材料タリシナリ
加之ブリアンハ大戦以來常ニ急進黨及之ニ接近セル諸派ト相提携
シ現下院ノ多數勢力タル國民團結(大正八年十二月往電二九二號
二九九號參照)トハ反對ノ地位ニアリ從ツテ其内政方針並ニ内務
大臣トシテマロー(急進黨)ヲ有スルハ多數議員ノ不安ヲ姑フ一

在佛國日本大使館

因タリシナリ偶々外務總務長官フィリップ、ペルトロイハ其家兄
アンドレ、ペルトロイカ中法實業銀行頭取ニシテ兩名トモニ急進
黨ニ近キ系統ニ屬スルヲ以テ議會ノ一部及新聞紙ハ外務總務長官
カ家兄ノ關係スル銀行ノ救済ニ官權ヲ濫用シタルコトヲ攻撃シ間
接ニ内閣攻撃ノ材料ニ使用セリ而シテ客年十二月下院議員テータ
ンデエカホ七日ノ議會ニテ爲セルペルトロイ攻撃引續キペルト
ロイノ辭職ハブリアン内閣ニトリテ傷手ナリシコト疑ヲ容レス

(二) 對獨賠償問題

對獨賠償問題ノ經緯ハ複雑ニシテ其詳細ハ別ニ賠償ニ關スル報告
ニ讓ルヲ適當トス茲ニハ單ニ佛國內政問題ニ觸レタル概略ノ諸點
ヲ敘述スルニ止メン
佛國カ戰爭ニ依リテ蒙レル損害ハ獨逸ヲシテ最後ノ一片迄支拂ハ
シメサル可ラストハ現存下院ノ總選舉ニ際シ國民團結カ提唱シタ
ル政綱ナリ故ニサンレモ會議以來ノ最高會議ハ幾度トナク獨逸ノ

在佛國日本大使館

賠償總額ヲ決定セントシテ常ニ英佛ノ見解一致セサル爲妥協點ヲ
發見スル能ハス漸ク客年五月六日ノ倫敦●支拂計畫ニ依リ賠償總
額ヲ千三百二十億金貨麻ト定メタルハ賠償問題ニ一段落ヲ劃セル
モノナリ然レ共當時佛國輿論ハ賠償委員會ノ査定總額ノ過少ナル
コト及ルルノ占領ニヨリ賠償支拂ノ擔保ヲ手ニ入レ能ハサリシ
點ニツキ不滿ノ意ヲ表シ議會ハ明白ニ支拂計畫ヲ以テ佛國最後ノ
讓步點ナルコトヲ表示セリ(客年往電第七三三號)爾來獨逸ハ大
正十年末迄ニ第一回ノ年金拂十億麻ヲ支拂ヒタルモ今年一月以降
ノ支拂ニ困難ヲ感シ昨年十二月十四日賠償委員會宛書翰ヲ以テ本
年ノ支拂ヲ完全ニ履行シ得サルコトヲ通告シ來リ賠償問題ハ再ヒ
佛國政界ノ主要ナル議題トナルニ至レリ
佛國朝野ノ識者ハ素ヨリ獨逸ノ窮狀ヲ察知セサルニ非スト雖獨逸
商工業カ英佛伊等ノ戰勝國ニ比シ遙ニ好況ニアル事實ト其財政々
策ニ何等緊縮ノ誠意ヲ示サス動スレハ故意ニ歲出ヲ膨大ニシテ賠

在佛國日本大使館

償支拂ヲ困難ナラシムルカ如キ跡アルニ快カラズ又佛國財政ノ實
狀カ歲入不足ヲ續ケ居ル事懸ニ鑑ミ賠償問題ハ即チ獨逸カ破産ス
ルカ佛國先ツ破産スヘキカノ問題ニ歸着スルモノトシ少クモ獨逸
ヲシテ客年五月六日ノロンドン支拂計畫ヲ完全ニ履行セシメ之カ
不履行ニ對シテハ必要ノサンクシヨンプラ加フル權利ヲ留保スヘシ
トスルコト多數政治家ノ主張ナリキ
右ロンドン支拂計畫ノ實行ノ外客年八月十三日ノ聯合國大藏大臣
協定ニヨリ配分スルコトナリ居ル獨逸ノ第一回支拂濟ノ十億麻
ニ付テモ佛國議會ハ其全部カ英國ノ占領軍費用及白國優先權ノ支
拂ノ爲ニ充當セラレ佛國ノ得ル處皆無ナルニ渺カラス不平ヲ生シ
タリ蓋シ條約ノ理論ヨリ云ヘハ聯合國ノ占領軍費ハ賠償ニ先シ
テ獨逸ヨリ支拂ヲ受クヘク又白耳義ハ賠償總額中二十億^五ノ優先
支拂權ヲ認メラレ居ルモノナルカ故ニ佛國輿論ノ不平ハ之ヲ以テ
英白伊諸國ニ對抗スル理由トナスニ足ラス然レ共此種ノ反對ヲ顧

在佛國日本大使館

ミスツテ八月十三日ノ協定ニ調印セハブリアン内閣ハ到底覆没ヲ免レ得サルヘキコト明白トナレルヲ以テ佛國政府ハ調印前大藏大臣協定ニ一般的留保ヲ爲シ今日ニ至ル迄之ニ同意ヲ與ヘサル次第ナリ(客年往電第一三三五號參照)

前記獨逸ノ十二月十四日附支拂不能ノ通牒ニ對シテハ獨逸カ本年度以降ノ金貨支拂ニ困難ヲ感スルニ於テハ一時其支拂ヲ猶豫スルコト止ムヲ得ストスルモ其條件トシテ大要左ノ諸項ヲ要求センコトハ佛國議會多數ノ主張ナリ

一、賠償總額ニハ變更ヲ加ヘサルコト

二、獨逸ニ對シ今後ノ支拂ニ對スル必要ノ保證ヲ要求スルコト即チ現存ノ擔保委員會ノ權限ヲ擴張シテ

a、輸出入關稅ノ監理

b、歲出入豫算ノ均衡

c、獨逸ノ帝國銀行ヲ獨立セシメ監督ノ爲之ニ佛國人ヲ派遣スルコト

在佛國日本大使館

d、獨逸人ノ有スル外國證券ヲ徵發スル權限

e、帝國銀行ノ兌換券發行ノ制限

f、獨逸資本ノ流出防止

g、貿易統計ノ管理

h、關稅長ノ任命

等ニ容喙セシムルコト

客年十二月ブリアンカ倫敦ヲ往訪セル際以上ノ諸點ニツキ英佛兩國間ニ意見ノ交換アリシ由ナルカ英國側ハ前記第一ノ點ヲ承認シタルモ第二ノ點ハ本件ハ客年五月ロンドン最高會議ノ際ニモ佛國側ヨリ英國ノ同意ヲ取付ケンコトヲ試ミ成功セザリシモノナリ

ニ就テハ多少佛國ノ希望ヲ參酌シ其一部分ノミニ同意ヲ與ヘタルモ獨逸ノ内政ニ深く干涉スル如キ方法ヲ採用スルヲ好マス佛國側ノ主張ハ貫徹スルヲ得ザリキコレ佛國議會カブリアンノ賠償政策ニ不安ヲ感シ初メタル直接動機ナリ

在佛國日本大使館

ブリアン倫敦訪問ヨリ歸來スルヤ佛國議會ハ交々賠償問題ニ對スル政府ノ意嚮ヲ聞カンコトヲ求メブリアンニ對シカンヌ行ヲ思止ランコトヲ勸告シタル向アリシカ十二月二十四日首相ハ下院ニ於テ佛國ハ條約ニヨリテ享有スル保證ヲ寸毫モ失フ處ナカルヘキ旨ヲ聲明セリ
然ルニ客年十二月ロンドンニテ英佛專門家ノ間ニ協定セラレタル賠償案ハ(a)來年度ニ於テ五億麻ノ支拂ヲ要求シ(b)英國ハウイスバデン協定ヲ向フ三ケ年間承認シ(c)金貨拂ノ不足ヲ補充スル爲現物支拂ヲ増加スル等ノ點ニシテ一時的ニモセヨ獨逸ニモラトリアムヲ許スコトハ止ムヲ得サル形勢ニ立至レル耳ナラス獨逸賠償金ノ配分額ニツキ白國全權トノ間ニ意見纏ラス佛白間ノ利害ノ調和ハ最モ困難ナル問題トナレリ
右ノ事情一月初旬巴里ニ知レ渡ルヤ佛國議會ハ護日ノブリアンノ聲明カ其實際政策ト矛盾スルコトヲ難詰シ初メ一月十日上院外交

在佛國日本大使館

委員會ハポアンカレ議長ノ下ニ左ノ趣旨ノ決議ヲ爲セリ
一、佛國ノ經濟及財政的復興ハ歐洲復興ノ重要ナル條件ナリ
二、故ニ此上佛國ノ對獨賠償額ヲ減少シ及ヒ一九二一年五月五日ノロンドン支拂計畫ヲ變更スヘカラス又白耳義ノ賠償優先權ヲ損傷スルヲ許サス
三、來ルヘキ歐洲經濟復興會議ニ於テ佛國ノ權利ヲ尊重スヘキ明瞭且有效ナル約束ヲ取付クルニ非レハ之ニ參加ス可ラス
四、英佛兩國間ニ協議中ナル協定ハ現狀及將來ノ爲諸般ノ條約ニ定メタル保證及之カ實行ヲ保證スルモノタルコトヲ要ス要之本委員會ハ下院ノ協贊ナクシテハ何等前記ノ諸點ニ關スル取極ヲ結フ可ラサルコトヲ確信ス云々
翌十一日下院財政委員會モ亦賠償ニ關スル佛國ノ權利ヲ損傷スヘカラサルコト及ブリアンノ十二月二十四日ノ聲明ニ信賴スル旨ヲ決議シ内閣々議モ亦十日午後獨逸ニモラトリアムヲ許ス場合ニハ

在佛國日本大使館

充分ナルガランチーヲ求ムルノ必要並ニ白耳義優先權ヲ害スル如キ措置ニ出サルヘキヲ決議シ之ヲブリアンニ送付セリ此等ハ凡テ一種ノ内閣彈劾案トモ認ムヘキモノニシテ十一日ブリアンカ急遽カンヌヲ出發セル報道巴里ニ達セル際ニハブリアン内閣ノ没落ハ到底避ク可ラサルヲ豫想セルモノ多シ

(三) 英佛協約問題

佛國カ巴里平和會議ニ際シ東方國境安全ハ爲ライン左岸ノ併合ヲ主張シタルコトハ各種文書ノ公表ト共ニ今ヤ掩フ可ラサル史實トナリ之ニ對シ英米兩國カ佛國ノライン左岸領有ヲ拒否スルト同時ニ英米佛三國ノ軍事同盟條約ヲ提供シタル事情モ既ニ周知ノ事實トナレリ而シテ佛國ノ立場ヨリ云ヘハヴェルサイユ條約ト英米

在佛國日本大使館

佛三國同盟條約トハ一體不可分ニシテ若シ三國ノ保證ナケレハ對獨條約ハ佛國ノ安全ヲ保護スルニ充分ナラストスルコト殆ント擧國一致ノ輿論ナリ
米國上院カヴェルサイユ條約ノ批准ヲ拒否シ延イテ英米佛同盟條約不成立ニ終ルヤ佛國政府ハ暫ク米國民主黨政府ノ引退ヲ俟チ新共和黨政府ノ就任ト共ニ對獨條約ノ批准及米國ノ聯盟加入ニツキ極力勸誘ヲ試ントセルコト諸般ノ徵象ニヨリ殆ント疑ヲ容レズ(客年往電四二九號四三五號參照)客年十一月ブリアン首相カ華盛頓會議ニ出席ノ爲同地ニ渡航スルニ際シテモ佛國外務省ハ内々米國ヲ引入レテ佛國トノ間ニ一種ノ同盟協定ヲ結ハントヲ夢想シ居タリトモ傳ヘラル
英國政府カ進ンテ佛國ノ安全ヲ保證スルコトヲ提議セル動機ハ素ヨリ佛國ト同一ナラスロイド、ダイビー等ノ英佛同盟論者ハ表向キノ理由トシテ獨逸南下ノ危險ヲ説クト雖其目的ハ歐洲ノ安定、

在佛國日本大使館

平和狀態ノ恢復ニアリト見ルヲ至常トスヘク之カ爲ニ英國ハ他方
米國ノ對獨條約批准及聯盟ノ加入ヲ希望シ尙聯合國間ノ債務整理
ニ加入セシメテ賠償問題ノ解決ヲ促進センコトニ努力シ來レルモ
ノノ如シ
客年三四月ヴィヴィアニ渡米ノ目的ハ北米合衆國ヲ聯盟ニ加入
セシメ米國ノ精神的及物質的勢力ヲ以テ歐洲ノ戰後恢復事業ニ參
加セシメ聯盟ノ權威ヲ以テ自國安全ノ保障タラシメ米國ノ富ヲ以
テ歐洲ノ疲弊ヲ醫スルニアリシハ當時一般ニ是認セラレタル處ナ
ルカ英國政府ニ於テモ亦之ト同様ノ見解勢力ヲ占メタルモノノ如
ク四月二十三日英佛首相ノハイス會見ニ於テロイド、ジョージハ
ブリアンニ對シ最高會議ニ米國ヲ招請スルノ必要並ニ臨機最高會
議ヲワシントンニ開催スル意見ヲ提示シ(客年往電第六四六號參
照)遂ニ五月ノロンドン最高會議ニテ米國招請ノ件ヲ議決シタル
如キ其企圖ノ偶然ニ出タルニ非ルヲ示ササルナシ而シテ稍信賴ス

在佛國日本大使館

ヘキ報道ニ依レハ客年十二月九日佛國賠償大臣ルイシヨトルカチ
エツカイスニ於テロイド、ジョージニ會見シタル際英國首相ハ對
獨賠償額ノ一部打切りヲ條件トシテ佛國ノ對英債務ハ獨逸ヨリ引
渡スヘキG證券ト振替フヘキ意見ヲ開陳シ同時ニ米國ヲシテ對聯
合國債務ノ打切り承諾セシムル爲打連レテ急速ワシントンニ赴カ
ン意嚮ヲ示シタル由ナルモ其後在米英國全權ヨリ現下ノ形勢ニテ
ハ米國カ此種ノ提案ヲ承諾スル見解ナキコトヲ報告シ來レル爲十
二月下旬ブリアントノロンドン會談ニ於テハ全然本件ヲ話頭ニ上
スコトヲ避ケ對佛債務ノ整理ニ付テモ今日迄何等ノ交渉ヲ開始セ
サルモノナリト云フ
惟フニ英國ノ眞意ハ能フ可クンハ北米合衆國ヲ佛國保證條約ニ加
入セシメ延イテ歐洲ノ復興計畫ニ付テモ米國ノ物質的勢力ヲ利用
シテ一日モ速ニ大陸ノ購買力ヲ恢復センコトニアルモ米國カ之ヲ
應諾スル見込ナキ場合ニハ止ムナク獨力ヲ以テ其方針ヲ貫徹セン

在佛國日本大使館

トスルニアルヘク今回佛國保證條約ノ締結ヲ提起シタル動機モ亦
茲ニアラン蓋シ英國カ露佛ト結ンテ獨逸孤立ノ政策ヲ指導セル精
神ハ歐洲大戰ト共ニ終熄シ大戰後ニ於テハ佛英協定ト云ヒ太平洋
協約ト云フモ實ハ世界ノ現狀維持歐洲ノ物質的原狀恢復ヲ目的ト
スル貿易政策ノ發露ニ過キスシテ政治的ニハ可成ク歐洲大陸ノ紛
糾ヲ避ケテ事實上「光榮アル孤立」時代ノ自由政策ニ歸ランコト
ヲ企圖セルモノニ非ルカ
遮莫米國カ再ヒモンロイ主義ノ不干涉政策ニ立歸ルヘキ形勢ヲ看
取シタル英國ハ獨力佛國ノ安全ヲ保證スルノ必要ヲ感得シ來レル
モノノ如ク其政策ノ一端ハタイムス、モーニングポスト等ノ新聞
紙ニヨリ先ツ提唱セラレタリ客年六月三日タイムスハ英佛同盟ノ
必要ヲ提唱シ之ヲ端堵トシテ英佛ノ諸新聞ハ一齊ニ英佛同盟ノ贊
否ヲ論議シタリ其大體ノ傾向ハ以下載録スル處ヲ以テ盡セリト雖
抑モ本件ノ提唱セラレタルハカイゾン卿外一二ノ英國閣員カ客年

在佛國日本大使館

四月十九日附意見書ヲ以テロイド、ジョージニ對シ英佛同盟ノ必
要ヲ進言シタル(客年往電第八四九號ノ(二)參照)ニ基因スルモノ
ノ如ク六月九日アヴァス及ラチオ通信社ノ倫敦電報ニ依レハ英佛
同盟問題ハ六月初旬ヨリ前後三回英國内閣々議ニテ審議セラレタ
ルモ本件ヲ直ニ議會及輿論ニ問フノ時宜ニ適スルヤ否ヤノ點ニツ
キ内閣ノ一致ヲ得ス而シテロイド、カイゾン、チエムパイレレン並
ニサー、エール、クロイハ英佛同盟ノ贊成者ナリト報セラレタリ
(客年往電八七一號)
茲ニ英佛ニ於ケル重ナル新聞紙ノ態度ヲ回想スルニ六月三日タイ
ムスハシレシア問題ニ附隨シテ惹起セル佛獨間ノ緊張セル空氣ヲ
論評シタル社説ニ於テ佛國カ獨逸ノ軍國トシテノ再起ヲ怖ルルコ
ト其地位ニ顧ミ尤モノ次第ナルカ若シ英佛現在ノ關係ヲ一層鞏固
ナラシムヘキ適當ノ協定ヲ遂ケ獨逸ノ復讐戰ヲ斷念セシムルヲ得
ハ佛國ノ危懼ヲ除クヲ得ヘク既ニ一九一九年ノ夏米國ト協同シテ

在佛國日本大使館

佛國ノ安全ヲ保證スル決心ヲ爲セル英國ハ今之ヲ單獨ニテ爲シ得サルノ理ナキコトヲ詳述セリ
佛國ノ輿論ハ案外同盟論ニ共鳴セスマタンハ歐洲問題ニ關スル限リ英佛ノ協調無ケレハ其解決ヲ見ル能ハサル可キモ世界政策ニ關シテハ米國ノ參加ナキ英佛二國ノ同盟ハ何事ヲモ爲シ得サル可シトテ米國參加ノ必要ヲ説キタンハ更ニ大要左ノ通り論評セリ
世人多ク英佛同盟ニヨリ佛國ハ歐洲内ニ於ケル政策ニツキ英國ノ援助ヲ得可ク英國ハ歐洲以外ニ於ケル政策ニツキ佛國ノ支持ヲ得ルニ至ルヘントナス然レ共歐洲以外ノ諸問題ニ就テハ單ニ英佛間ノ協調ノミニ依リテ解決シ得サルモノ頗多シ例ヘハ東方問題殊ニ高加索ミソポタミヤノ油田ニ關シテハ北米合衆國力重大ナル利害關係ヲ有スルカ如ク太平洋問題モ日英同盟ノ改訂如何ニ依リ將來ノ形勢ニ甚大ノ影響アリ而シテ又米國自身モ日英同盟ノ更新ニ多大ノ利害ヲ有スルモノナリ即米國ヲ除外スル英

在佛國日本大使館

佛ノ同盟ハ此等ノ海外問題ヲ解決スルニ充分ナラス又英米間ニ充分ノ了解ナキ限リ英米佛三國同盟モ成立シ易カラス然ルニ歐洲問題特ニ對獨關係ニ付テ佛國ハ充分英國ノ支持ヲ期待シ得ヘキヤト云フニ英國ハ獨逸商工業ノ勃興ヲ喜ハス其發展ヲ抑制シテ自己ノ有利ニ獨逸ヲ調理スルヲ以テ利益ト認ムヘキニ反シ佛國ハ獨逸ノ債權者トシテ獨逸ノ復興ヲ其直接ノ利益ト認ムル點ニ於テ英佛間ニハ大ナル利害ノ衝突アルヲ否ムコト能ハス即兩國ノ親交ハ之ヲ別個ノ問題トシ空漠ニシテ時機未タ熟セサル英佛同盟案ハ暫ク之ヲ留保セサル可ラス云々(客年往電第八五五號)客年夏期倫敦ニ開カレタル英帝國首相會議ハ英國外交政策ノ將來ニツキ種々意見ヲ交換スルト同時ニ英佛同盟締結ノ必要ニ付テモ談合アリシコト英國政府カ本年一月四日附ニテ佛國政府ニ交付シタル覺書ニ記載スル處ナリ(本年一月二十日附公第三六號附屬中段)此間ニ米國ノ招請セルワシントン會議ハ歐洲政局ニモ甚大ナ

在佛國日本大使館

ル影響ヲ及ホン佛國ハ自己カ從來不文ノ同盟條約ヲ有スト信シ居タル米國ヨリ今後何等物質的後援ヲ期待シ得サルコトヲ悟ルト同時ニ歐洲ニ於ケル孤立ノ不安ヲ感スルコト一層切ナルヲ加ヘタリ此ノ時局ノ變遷ハ客年末ヨリ再燃シタル英佛協約案ニ對スル佛國新聞ノ態度ニ變化ヲ與ヘタルノミナラス爾來益々經濟界不振ノ壓迫ニ苦メル英國ノ上下ハ又之カ救濟ニ付米國ノ協力ヲ得ルノ困難ナルヲ見定メ自ラ歐洲大陸ノ安定ニ焦慮セサルヲ得サル形勢ニ立至レリ

於是佛國首相ブリアンハ客年十二月ロンドン訪問以來英佛協約ニツキ交渉ヲ開始シ英國首相ハ本年一月四日先ツ其草案ヲカンヌニ於テブリアンニ手交シタルモノノ如シ(右英國ノ第一草案ハ一月十二日巴里ニ於テ發表セラレタル條約案ト果シテ幾干ノ相違アリシヤ明瞭ナラス)

前記英佛保證條約ニ對スル佛國多數新聞紙ノ態度ハ主義上之ヲ承

在佛國日本大使館

認スルニ一致セルモ英國カ本件ヲ提起セル裏面ニハ賠償問題近東政策乃至軍備制限ノ問題ニツキ佛國ニ讓歩ヲ要求スルモノナルカ如キ感ヲ與ヘ概シテ本協定カ獨逸ノ復讐戰ヲ斷念セシムル點ニ於テ精神的ニ佛國ヲ支持スルコト大ナルモ今後十ヶ年間ノ國際政局ニ於テ本協定カ佛國ニ對シ何等的確ナル利益ヲ附與スルコトナカル可キ旨ヲ論ジタルモノ多シ

チユルナルハ右協定案ヲ評シテ英國ハ自由ニ該協定ノ適用アル場合ト否トヲ認定スルノ權利ヲ保有シ且右協定ハ佛國カ波蘭ヲ援助センカ爲獨逸ニ壓迫ヲ加ヘントスルカ如キ場合ニ適用セラレサルヲ以テ佛國ニ對スル安全ノ保障ハ最少限度ニ止ルト云ヒデバ紙ノゴイヴァン氏ハ曰ク保證條約ハヴェルサイユ條約第四十二、四十三、四十四條以上ノ安全ヲ保證スルモノニ非ス且該協約ハ佛國カ英國ト協調ノ上ニ非レハ獨逸ノ戰鬪行爲ニ對シテモ武力ニ訴フルヲ得サルコトトナルヘシ云々

在佛國日本大使館

惟フニワシントン會議以來ノ外交ノ不成功ト對獨賠償問題ノ紛糾
トカ佛國朝野ノ神經ヲ極メテ過敏ナラシメタル際ナリシコトハ確
ニ英佛協定ニ對スル世論ヲ惡化セシムル結果トナレリ前陸相ア
ドレ、ルフェイヴル氏カヂユルナルニ寄セタル論文ノ如キハ正ニ
此間ノ消息ヲ洩セルモノト云フヘシ曰ク
英佛同盟ヲ締結スルニハ今日ハ時機最モ不適當ナリ英國ノ對佛
感情ハ潛航艇制限問題以來著ク冷却シ佛國ニ對シ好意ヲ表ス
ルモノ尠シ該同盟ハ寧ロ右ノ事件以前ニ於テハ容易ニ締結シ得
タリシナラム又締結セサル可ラザリシナラム一年前ウイנסト
ン、チャイチル氏カ準備シタル英佛協定案ハロイド、ジョージ
氏ニヨリ握潰サレタリ英國首相ハ曩ニ葬レル協定案ヲ今ニ至リ
テ持出セルハ潛航艇問題及佛土協約問題ニツキ自國ニ有利ナル
清算ヲ行ヘンカ爲ナリ佛爾西ハ目下ノ處好意アル英國ノ盟友タ
ルヘシ但シ決定的ニ同盟協約ヲ結フニハ更ニ好機ノ到來ヲ待ツ

在佛國日本大使館

ヲ得策トス云々
英佛協定ノ交渉ハ當時カンヌニ最高會議開催中ナリシヲ機會トシ
專ラ同地ニ於テ行ハレツツアリシモ巴里ニ殘リシ佛國ノ多數内閣
員ハ前記諸新聞ノ評論ニ超然タル能ハス一月十日ノ閣議ニ於テ英
佛協約ニ付テハ兩國カ全然同等ノ立場ニ於テ相互ノ安全ヲ保證ス
ルコト又之カ爲ニ獨逸ヲ裁會議ニ參加セシメテ對獨條約履行ノ保
證ヲ弱ムルカ如キコトアル可ラサルヲ決議シ之ヲ賠償問題ニ關ス
ル意見ト共ニブリアンニ電送セリ如此ク本件ニ關スル佛國輿論ノ
趨向ハ有利ナラサルカ如シト雖責任アル政治家ハ英佛協定ノ成立
ヲ以テ佛國ニ有利ナルコトヲ充分ニ了解シ居ルヲ以テ英國カ佛國
ノ一部ニ存スル猜疑ヲ消散セシメ且佛國ノ自負心ヲ害セサル様協
定ノ條項ニ幾分ノ修正ヲ加フルニ於テハ後繼内閣カ銳意其成立ニ
努力スヘキハ疑ヲ容レス若シ國民多數ノ信望ヲ繫ケル政治家カ當
時内閣ノ首班ニアリタリトセハ恐ラクハ如此ク世論ノ喧囂ヲ招カ

在佛國日本大使館

スジテ本年初頭迅速ニ條約ニ調印シ得タリシナラン

(四) 歐洲經濟復興會議召集問題

歐洲大戰カ世界各國ノ經濟財政ニ與ヘタル影響ハ甚大ニシテ戰後二三ケ年ノ間ニ其均衡ヲ恢復センコトハ到底人爲ノ克クスル處ニ非ス然レ共一九一八年ノ戰勝ニ寄與シタル程度ハ國ニヨリテ異ルヲ以テ聯合諸國ハ其戰後經營ニ際シ可成ク犧牲ヲ均一ニスルノ目的ヲ以テ戰費又ハ戰後ノ恢復ニ必要ナル物質上ノ負擔ヲ分擔シ其最モ犧牲トナレル者ヲ疲弊ヨリ速ニ恢復セシムルコト寧ろ平衡ノ精神ニ叶フトスル思想ハ一時佛、白、伊其他大陸ノ聯合諸國ニ傳播シタル處ナリ

一九一六年聯合諸國ハ巴里ニ聯合國經濟會議ヲ開キ經濟財政上ニ於テモ諸國ノ結束鞏固ナルヲ示シタルカ平和會議當時ニ於テモ佛伊白諸國ハ右會議ノ決議ヲ敷衍シテ聯合國間ニ經濟的連帶共助ノ

在佛國日本大使館

條約ヲ結ハン意嚮アリ應酬頗ル力メタルモ英米兩國ハ平和會議ノ討議題目ヲ專ラ對敵條約ノ討議ニ限ル方針ヲトリ遂ニ佛伊白ノ希望ハ達成セララルニ至ラス一時望ヲ囑セラレタル聯合國最高經濟會議モ米國ノ脫退ニヨリ多ク見ルヘキ事業ヲ爲サスシテ解散セリ然レ共歐洲大陸ノ經濟財政ハ戰後日ヲ逐ウテ益々悲境ニ陥リ之カ爲直接戰爭ノ打擊ヲ蒙ラサリシ諸國(例ヘハ瑞西、和蘭等)モ產業不振ニ陥リ英米兩國モ亦其例ニ漏レサルニ至リ之カ救濟ノ手段ハ一般有識者ノ顧念スル處トナレリ

一九二〇年四月ロンドンニ會合セル國際聯盟理事會ハ其決議ヲ以テ國際聯盟ハ財政ノ窮狀ヲ調査シ之ヲ救濟又ハ緩和スル方法ヲ研究スル爲萬國會議ヲ召集スル件ヲ議決シ同年九月ヨリ財政專門會議ヲブリュッセルニ開催セリ

右會議ニ於テ三十九ヶ國ノ代表者會合ノ上財政及經濟復興ニ關スル具體的考案ヲ討議シ浩瀚ナル報告書ヲ國際聯盟理事會ニ提出セ

在佛國日本大使館

リ
前記アリユツセル會議ノ決議書ハ極メテ有益ナル事項ヲ包含スル
モ國際聯盟ノ現狀ハ直チニ右決議ノ實行ヲ諸國ニ強要スルノ力ナ
ク又賠償問題、ロシア復興問題等ハ聯盟ニ於テ寧ロ之ニ觸レサル
ヲ適當トスルカ如キ事情アリ殊ニ世界各方面ノ利害錯綜セル聯盟
ニ於テハ右決議ノ實行容易ナラサルモノアルハ之ヲ諒トセサルヲ
得ス
今回英國カ提議シタル歐洲經濟復興ニ關スル會議案ハ其主タル目
的カロシア波蘭獨逸等ノ東歐羅巴ノ復興ニアル點ニ於テ前記聯盟
ノ案ト異リ又其計畫カ鐵道其他ノ企業ニ亘リ且之ヲ營利事業トシ
テ一私立會社ノ手ニ委ネントスル點ニ於テ一層實際的ナリト思惟
セラレツツアリ
英國案ノ根底カ如何ナル方面ノ考案ニ基クヤ未タ判明セス大陸ニ
流布セラルル通説ニ從ヘハ右ハ主トシテ獨逸實業家ノ發案ニ基ク

在佛國日本大使館

モノナリト傳ヘラル
獨逸ノ商工業者カ露國ニ販路ノ開拓ヲ希望スルハ自然ノ勢ニジテ
一九一三年ノ露國輸出入貿易カ其五割迄對獨逸取引ナリシニ見テモ
露國ノ購買力恢復カ獨逸ノ輸出貿易ニ消長アルコト極メテ見易キ
處ナリ而シテ大戰以來其殖民地ヲ失ヒ世界各地ニ開拓セル商業地
盤ヲ喪失セル獨逸カ一層對露通商ニ今後ノ活路ヲ發見セントスル
努力ノ徒爾ナラサルヲ知ル
スチンネス一派カ英米ノ資本家ト合同シ大規模ノロシア企業ヲ畫
策シツツアリシハ周知ノ事實ナリ之ニ對抗シテ電氣業者ドイツチ
エ及ラテナウ一派カ英米佛ノ資本家ヲ誘ヒ略同様ノ計畫ヲ有スル
コトハ客年夏期以來喧傳セラレタル處ニシテ倫敦ノ企業家ハ寧ロ
其後者ト握手セルモノナリト云フ
英國政府ハ銳意歐洲經濟復興ノ爲ニ謀リ先ツ今回ノ考案ヲ立ツル
ニ至レルニ相違ナシト雖同時ニ又今後獨逸勢力カロシアニ浸潤ス

在佛國日本大使館

ルノ勢避ク可ラサルヲ悟リ今日ニ於テ獨逸企業家ト合同シテ露國
開發事業ノ一部ヲ自己ノ手ニ收メントスルコト並ニ獨逸商品ノ販
路ヲ東歐諸國ニ求メシメ以テ他ノ市場ニ於ケル自國品トノ競争ヲ
緩和セントスルコトモ今回ノ經濟復興案ヲ支持セル動機ニ非ルヘ
キカ聞ク處ニ依レハロイド、ジヨージ直參ノ實業家ノ一人タル英
蘭銀行ノキンダイスレイハ所謂歐洲復興案ノ成功ニ最モ多ク疑問
ヲ有スル一人ナリト云フ故ニ該考察ハ英國ニ於テハ寧ロ政府筋ノ
發意ニ基クモノニシテ企業家側ハ一種ノ試トシテ之ニ追從セルモ
ノニ非ルナキヤヲ疑ハシム歐洲經濟復活ノ爲國際會議ヲ召集シ國
際的資本ヲ以テ企業會社ヲ組織スル考察知レ渡ルヤ佛國ノ輿論ハ
概ネ其成功ヲ疑ヒ之ニ反對セリ以下其最モ代表的ノ議論ヲ掲ケン
タム(一月一日)曰ク
本計畫ハ廣ク中歐及東歐ヲ目的トスルモノナルモ其企業ノ眼目
ハ專ラロシアニアリ英國カ本案ヲ提起シタル目的ハ輸出貿易ヲ

在佛國日本大使館

救フ爲專ラロシアノ經濟的復興ヲ圖リロシアノ復興ト共ニ獨逸
經濟力ノ恢復ヲ企テントスルニアリ而シテ英國カロシアトノ取
引ヲ急ク理由ハ右ノ外(一)現在ノソヴィエツト政府カ次ニ來ルヘ
キ無政府狀態又ハ帝國主義ノ政府ヨリモ英國ニ取リ利益ナルヘ
シトノ考及(二)獨逸ハ益々ロシアトノ取引ニ力ヲ入レントスル形
勢アルコトニシテ英國カロシアヲ獨逸ノ獨占ニ委スルヲ好マサ
ルハ勿論ナリ
佛國ハロシアニ大ナル利益關係ヲ有ス故ニ本計畫ヨリ脫退スル
ノ愚ヲ學フ可ラスト雖同時ニ又本計畫遂行ノ爲及ロシアニ關係
アル諸國ノ利益擁護ノ爲一定ノ保證ヲ取付クル要アリ第一ノ要
件ハロシアニ於ケル個人所有權ノ尊重ナルカ之ヲ要求スル時ハ
財政問題ヲ超ヘテ政治問題ノ範圍ニ入ル蓋シ最近ノ情報ハソヴ
イエツト政府カ依然トシテ共產主義ヲ固持シ其基礎ヲ確保スル
ニ汲々タルカ如シ此現象ハ決シテコンソルシオムノ成立ニ有利

在佛國日本大使館

ナルモノニ非ス又佛國ハロシアヲ共同管理シ或ハロシアノ將來ヲ拘束スル如キ計畫ニ參與シ得サルハ論ナシ云々
ブチ、パリジャン(十二月三十一日)曰ク
ロシア復興ノ計畫並ニ之ニ對シ獨逸ヲ參加セシムルコト共ニ可ナリ不幸ニシテ爲政者ハ問題ノ前後ヲ忘却セリ歐洲ノ復興ヲ最モ妨クルモノハ獨逸經濟狀態ノ混亂ナリ獨逸ノ賠償ヲ輕減シ聯合國間ノ債務ヲ整理スル案ハロイド、ジヨージカサキニチエツカリスニテルイシヨイルニ談話セル處ナルモ米國ノ態度不定ノ爲此案モ沙汰止ミトナレリト云フ米國カ聯合國ノ債務打切ニ贊成セサルハ明白ナルニ拘ラス今更國際會社ノ案ヲ捻出シテ之ニ代ヘタルハ遺憾ト云ハサルヲ得ス
賠償問題ヲ決着セシムルコトハ歐洲復興ノ一大要件ナリ而シテ獨逸ハ國際公債ヲ以テ一億磅ヲ支拂フコト決シテ困難ニ非ス然ルニ國際會社案ハ其利益ノ一部ヲ以テ賠償ヲ支拂フト云ヒロシ

在佛國日本大使館

アノ産業恢復ニヨリ歐洲經濟狀況ノ復活ヲ期スト云フ如キ何レモ日暮レテ途遠キ憾アリ先以テ解決スヘキハ來年ノ賠償ノ支拂ニシテ次ニ賠償問題全部ヲ考察シ其解決ヲ俟ツテ國際會社ノ設立ヲ考フルカ順序ナリ云々
以上ノ議論ハ能ク佛蘭西人一般ノ思潮ヲ代表セルモノト見ルヘク事業ノ目的カ何レニアルニモセヨ此際獨逸ヲ招イテ佛國ト同等ノ權利ノ下ニ協働セシメントスル思想ハ殆モ獨逸ヲ國際聯盟ニ加入セシムルヲ好マサルト同様ノ程度ニ佛國ノ好マサル處タルヤ必セリ殊ニ露國開發ノ爲ニ獨逸ト協同スルハ佛國ニ利スル處ナクシテ却ツテ獨逸ノ活動ヲ援助スルニ止ルヘントノ疑念ヲ抱ケルモノ尠カラサルニ於テオヤ
更ニ佛國カ露國過激派政府ノ承認ヲ躊躇シ之ヲ國際會議ニ參加セシムルヲ欲セサル理由モ亦其依ツテ來ル處甚久シ然レ共此等ノ理由ヲ外ニスルモ二千萬磅ノ資本ヲ有スルニ過サル雜然タル寄り合

在佛國日本大使館

ヒ世帯ノ一會社カ流漠タル露西亞ノ復活ヲ計畫スルハ到底眞面目ノ業ト思ヘレストスル考ハ可成リ廣ク傳播シ居ルモノト觀察セラ
ル果セル哉一月十日ノ佛國閣議ハ國際會議ニ露獨ヲ參加セツムル
ニハ一層有力ナル保證ヲ提供セシムヘキ趣旨ヲ可決シ之ヲブリア
ンニ電送セリ

(五) 露西亞招請問題

佛國外交政策ノ大部分ハ對獨政策ニシテ對獨政策ノ缺ク可ラサル
一部分ハ獨逸ノ隣接國タル露國波蘭チエツク等ニ對スル政策ナリ
一九一七年末ロシアノ第一次革命政府倒レテレニ過激派政
府之ニ代リブレストリトウスクノ條約ヲ以テ獨逸ト單獨講和ヲ
爲セルコトハ佛蘭西國民ニ拭フ可ラサル印象ヲ與ヘタリ露國ハ叛
逆者ナリ逃亡兵ナリ其主魁ハ過激派ナリトノ憤怒ハレニニ政府
ノ外債破棄私権蹂躪ノ事實ト共ニ對露債權國ノ巨頭タル佛國民
ノ對露反感ヲ一層高調セシメタリ

在佛國日本大使館

之ヲ以テウランゲル没落ニ至ル迄ノ佛國ノ對露政策ハ一貫シテロ
シア反過激派ノ援助ナリ之ト同時ニロシアノ倚賴ス可ラサルヲ見
テ佛國ノ同情ハ叫然トシテ波蘭及チエツクノ上ニ集マリ再ヒ大露
國ノ建設セララル迄ハ新スライヴ國ヲ率ヒテ獨逸ノ東國境ニ其勢
力ヲ牽制スルコト其不動ノ政策ナリ

反之英國ノ對露政策ハテニキン政府ノ没落ト共ニ一轉機ヲ劃シ大
正九年ノ夏期英國ハ對露通商開始ノ協議ノ爲聯合國最高經濟會議
ヲ倫敦ニ召集シ佛白伊日諸國ノ代表者ト共ニモスコイ政府ノ代表
者クラシント意見ノ交換ヲ開始セリ偶々ウクライナ地方占領中ナ
リシ波蘭軍ハ漸次過激派ノ攻撃ニヨリ退却ヲ始メ七月初旬ニハコ
Iヴェリ、バラノウイツチノ線ニ退却スルノ止ムナキニ至リ波蘭
ノ形勢益々急ヲ告クルニ及ヒ英國ハ露波兩國ノ間ニ和議仲介ノ勞
ヲトランコトヲ申出テ佛國ハ寧ろ極力物資ノ援助ヲ波蘭ニ與ヘテ
過激派軍撃退ニ力ヲ添ヘタリ本件協議ノ爲英佛兩首相ハ七月二十

在佛國日本大使館

七百、八月九日ノ兩度ブイロンニユ及ハイスニ會商シタルモ波蘭
救援ニ關スル兩國ノ意見ハ遂ニ一致ヲ見ルニ至ラス八月十一日佛
國政府ハ公然クリミヤノウランゲル政府ヲ承認シ同時ニ最高經濟
會議ヨリ其代表者ヲ引上ケシメ英佛間ノ關係一時緊張シタル事實
ハ未タ世人ノ記憶ニ新ナル處ナリ
爾來波蘭ハ過激派軍ヲ擊退シウランゲル政府ハ崩潰シテロシア内
部ニ反過激派ノ勢力一掃セラレ佛國ハ時局觀望ノ態度ヲ執リ英國
ハ露國トノ通商談判ヲ繼續シ翌一九二〇年三月漸ク通商再開ノ條
約ニ調印セリ
英國カ佛國ノ意嚮ヲ顧ス露國トノ通商ヲ開始セントスルヤ佛國ハ
右通商ノ開始ニヨリテ舊ロシアノ債權國カロシアニ對シテ有スル
債權ノ擔保ヲ害スル如キ事實ナカラムコトヲ希望スル旨ヲ申入レ
佛國ハ(一)ロシアノ中央政府カ同國ノ民意代表機關ニヨリテ認メラ
レ(二)且ロシアノ舊債務ヲ繼承スル旨ノ條件ヲ認諾スルニ非レハ正

在佛國日本大使館

式政府トシテ承認スルヲ得サル旨聲明セリ
前記佛國ノ對露政策ハ事態ノ變化ニ伴ヒブリアン内閣ニ至リテ稍
緩和セラレ(一)内政ノ問題トシテハロシアノ承認ニヨリ佛國內ノ共
産黨ノ勢力ヲ増進セシムル如キ虞ハ此内閣ノ時代ニ至リ消散セル
モノト認メラル(二)民衆ノ過激派政府ニ對スル反感モ亦昔日ノ如ク
強烈ナラサルカ如シ
然レ共大統領ミルラン及議會ノ多數黨タル國民團結ノ議員カ容易
ニ昨日ノ行掛リテ忘レテ急遽英國ノ對露政策ニ迎合スルヲ欲セサ
ルハ素ヨリ其所ナリ之ヲ以テ本年一月カンヌ會議ニ於テ英國側ヨ
リ經濟復興會議ニロシア政府ヲ正式ニ招請センコトヲ提議スルヤ
佛國政府ハ輿論ノ傾向ニ鑑ミロシア承認問題ニ對シ應酬ノ餘地ヲ
存センカ爲先ツ本會議カ專ラ經濟財政問題ノ討議ニ限ルコト及ヒ
參列國カ私權尊重其他ニツキ充分ノ保證ヲ與フルモノタルヲ要ス
ルコトヲ提議シ最高會議ヲシテ之ヲ承認セシメタリ

館使大本日國佛在

然レ共經濟復興會議其モノニ不滿ナル佛國政界ノ一派ハロシアニ
對シ其條件附承認ヲ申出スル如キ通牒(一月十日カンヌ最高會議
決定參照)ヲ發スルニ一層ノ不安ヲ感シ一月十日上院ノ外交委員
會ハ右經濟復興會議ニ於テ佛國ノ權利ヲ充分尊重スヘキ明白ナル
約束ヲ取り付クルニ非レハ之ニ參加ス可ラストノ決議ヲ爲シ大統領
領自身モ親電ヲ以テ露國ノ參加ニハ一層有力ナルガランチイヲ要
求スル必要アル旨ヲブリアンニ通告シタリト云フ佛國ノ對露政策
ハ今後如何ニ展開セラルヘキヤ粹ニ豫斷ノ限リニ非スト雖同國上
下ノ本問題ニ對スル意嚮ハ略ホ上述セル處ヲ以テ盡セリト云フヲ
得ヘクブリアン内閣ノ覆没ハ佛國ノ露國政府承認ノ傾向ヲ挫折セ
シメタルコトハ略ホ疑ヲ容レサル處ナリ

(六)ブリアン内閣ノ辭職

客年十二月獨逸ノ賠償支拂不能ノ通告ニヨリロンドン支拂計畫ニ
變更ヲ加フヘキヤ否ヤノ問題ハ再ヒ最高會議ノ開催ヲ必要トスル

館使大本日國佛在

ニ至リ同時ニ英國側ハ歐洲經濟界ノ局面開展ノ爲新ナル考案ヲ立
ツル必要ニ迫ラレタルモノノ如ク十二月初旬以來佛國賠償大臣及
首相ブリアンハ交々ロンドンニテ英國側ト意見ヲ交換スル處アリ
タリ
ロンドン會商ニ於テハ賠償問題ニ關シ英佛專門家ノ間ニ一九二二
年以降ノ支拂ニ關スル協定(本年往電第八號第十四號)ヲ作成シ
タル外兩國首相ノ會談ニツキテハ其時々ノ新聞公表以外文書ノ兆
スヘキモノナシ然レ共稍信賴スヘキ情報ニ依レハ十二月初旬ル
シヨールカロイド、ジヨージヲチエツカイヌニ往訪シタル際ニハ
英國首相ハ英國ニ關スル限り年金ニ對スル對獨賠償ノ金額ヲ打切
ルノ意嚮ヲ示シ同時ニ聯合國間ノ債務整理ノ手初メトシテ佛國ノ
對英債務ハ後日獨逸カ賠償委員會ニ支拂フヘキ證券ヲ以テ辨濟
スル考案ヲ提示シタリト云フ尤モ本案ハ英蘭銀行理事キンダース
レノ考案ニ基クモノニシテ英國大藏大臣及次官ハ共ニ反對シ居

在佛國日本大使館

タルモノナルコトヲモ英國首相ニ於テ申添タリト傳ヘラル
然ルニ十二月十九日以降ノ兩首相會談ニ於テハ專ラ一九二二年一
月二月ノ賠償支拂問題ヲ討議シ賠償額ノ打切り乃至ハ佛國ノ對英
債務整理ニ論及スル處ナク同時ニ歐洲ノ經濟財政復興ノ爲ニ國際
會議ヲ召集スル件ニ付テハ略兩國政府ニ於テ主義上ノ見解一致シ
其他英國ハ佛國ノ安全ヲ保證スル爲英佛間ニ大體一九一九年六月
二十八日調印ノ英米佛三國條約ニ類似ノ條約ヲ締結スルノ用意ア
ルコトヲ聲明シ其前提トシテ英佛間ニ懸案トナリ居レル諸問題(近
東問題、タンジエノ地位等)ヲ解決シ尙潛水艇ノ制限陸軍々備制
限ニ付テモ英國ハ佛國ノ好意の態度ヲ期待スルコトヲ通告シタル
モノト察セララル(十二月二十二日英國政府コムミュニケ参照)
倫敦會商後佛國議會ヘ交々ブリアンノ政策ヲ聞カンコトヲ求メ首
相ハ上下兩院ニ於テ左記ノ趣旨ヲ繰返シ演説シタリ二十九日上院
ニ於テ爲セル演説ノ要領左ノ如シ

在佛國日本大使館

賠償問題ハ佛國ノ時局ヲ支配スル重要問題ニシテ過般ロンドン
會商ニ於テロイド、ジョージ氏モ之ヲ認メ佛國カ當然賠償ヲ受
クヘク何等犠牲ヲ拂フヘキモノニアラサル旨ヲ明言セリロイド、
ジョージ氏カ國際公債ヲ起サンコトヲ計リシモ亦タ此目的ニ外
ナラス然ルニ此案ハ必要條件未タ具備セサル爲一時中止トナレ
リ又一九二二年度ノ賠償支拂ニ付テハ佛國ハ此上一サンチム
ノ犠牲ヲモ忍ビ得サルコトヲ確認セシメタリ但シ本問題ハ白耳
義伊太利兩國ニ關係アルヲ以テ右等諸國ノ承認ヲ經タル上ニ非
レハ決定セス
歐洲經濟復興會議開催及獨露兩國ヲ之ニ召集スル件ハ未タ確定
ニ至ラス然レ共露國問題ハ重大ニシテ他國カ露西亞ト經濟的及
政治的交渉ニ入ランコトヲ考慮スルニ當リテハ佛國モ亦中歐及
東歐ノ復興問題ニ没交渉ナルヲ得ス但倫敦會談ニ於テハ本件ハ
英佛合意ノ上聯合諸國ニ謀リ其ノ同意ヲ得ルニ非レハ成就シ難

館使大本日國佛在

シト認メ之ヲカンヌニ於テ審議スルコトトナセリ米國カ右會議ニ參加センコトハ吾人ノ希望スル處ナリ獨逸ニ付テハ若シ同國カ目下考案中ナル國際會社ニ加入スル條件トシテ其利益ノ半額ヲ賠償ニ支拂フコトヲ約スル場合ニハ之カ加入ヲ許スコトモ一策ナランカ云々
之ヨリ先キ經濟復興ノ爲創設セラルヘキ國際會社ノ草案ヲ討議スル爲十二月二十八日英國陸相エヴァンスハ實業家ノ一團ト共ニ巴里ニ着シ二十九日ヨリ佛國及白伊ノ専門家ト協議ヲ開始シ次テ帝國代表者モ三十日ヨリ之ニ參加スルコトトナレリ(客年往電一七八二號)然レ共五國代表者ノ會合ハ本件ニ關スル考案ヲ全然完成スルニ至ラスシテ最高會議ト共ニカンヌニ移レリ
超ヘテ數日ブリアンハ一月四日カンヌニ赴キ直ニロイド、ジョーシト非公式ノ會合ヲ重ネ同六日ヨリ最高會議ノ議事ニ移レリ其以後ニ於ケル事件ノ發展ニ就テハ既ニ第二第三篇ニ略述シタル處ノ

館使大本日國佛在

如シ
茲ニブリアン内閣ノ立場ヲ困難ナラシメタル原因ノ一トシテ大統領トノ政見ノ相違ヲ舉ケサル可ラス現大統領ミルランハ一九二〇年九月大統領候補者受諾ニ際シ同氏^カ過去八ヶ月間内閣議長トシテ提唱シタル政綱(約言スレハ内政ニ於テハ國民ノ一致協力、秩序維持、勤勉力行外交ニ於テハ對獨條約ノ完全ナル履行)ヲ敘述シ而モ其政策ヲ大統領トシテ行フニ異議ナキニ於テハ大統領ニ就任スルヲ辭セサルヘキ旨ヲ宣明シ尙且國民議會ノ大多數ヲ以テ當選セリ(大正九年往電一四六五號、一四八八號)故ニ國民議會ハ其選舉ニ於テ暗黙ニ大統領ノ政綱ヲ承認シ舊來ノ慣例ヲ破リテ大統領ニ政策實行ノ權能ヲ認メタルモノトモ解釋シ得ヘシ
佛國大統領ハ其閣員ノ任命ヲ爲スニ當リ必ス先ツ上下兩院議長及要スレハ兩院ノ有力者ニ協議ノ上内閣議長ヲ選任スルヲ例トシミルラン大統領モ亦今日迄其例ニ倣ヒ來レルカ^始シト雖内閣閣議ニ

在佛國日本大使館

於テ意見ヲ述フルハ勿論平素外務省ヨリ在外使臣ニ發送スル訓令ノ如キモ事重要ナルモノハ先以テ大統領ノ親裁ヲ受クル例ナリト云フ
事情如此クナルヲ以テ一月初旬カンヌ最高會議ニ於テ賠償問題ト共ニ歐洲經濟復興會議ニ露獨ヲ召集スル件附議セラルルヲ大統領ハ其結果カ當然ソヴィエツト政府ヲ承認スルコトトナリブリアンノ政策カ自己ノ包藏スル對露政策ト益々背馳スルヲ恐レブリアンニ電報シテ露國ノ參加ニハ一層有效ナルガラシチヲ要求スヘキコトヲ求メ尙一月六日ノ最高會議カ爲セル決議第六項ハ將來獨逸カ條約履行ヲ怠ル場合ニ佛國カ之ニ制裁手段ヲ執ルコトヲ不可能ナラシムル處アルコトヲモ注意シタリト云フ
ブリアンハ前記二點ニ付テハ充分最高會議ニテ留保シ置ケルニ付後日行違ヲ生スル虞ナキ旨ヲ答ヘタルモ大統領ハ更ニ今後反對解釋ヲ生セサル様明瞭ニ最高會議ノ決定ヲ取付ケ置クヘキ旨ヲ力説

在佛國日本大使館

セリ於是ブリアンハ内閣ノ意見ヲ求ムル爲ニ閣議ヲ開カンコトヲ電請シ十日ノ閣議ニ於テ大統領ヨリブリアントノ間ニ往復セル電報ヲ披露シ其意見ヲ求メタリ閣議ハカンヌニ於ケルブリアンノ措置ヲ悉ク承認スルヲ肯セス寧ロ大體ニ於テ大統領ノ意見ヲ承認シ左ノ趣旨ノ決定ヲ爲セリ
一、歐洲經濟復興會議ニ露國ヲ參加セシムル場合ニハ充分ノ保證ヲ取リ付ケ置クヘキコト
二、獨逸ノ賠償支拂ニ一部モラトリアムヲ許ス場合ニハ今後ノ支拂ニ對スル保證ヲ求メ且或種ノ監督權ヲ請求スヘシ又白耳義優先權ヲ害スル如キ措置ヲ執ラサルコト
三、英佛協約ハ英佛兩國カ全然均等ノ立場ニ於テ相互ニ安全ヲ保證スヘキコト又右協約ノ結果佛國カ獨逸ニ對シ條約履行ノ保證ヲ弱ムル如キコトアル可ラス
右閣議ノ決定ニ際シバルツィ、マジノ、ツィメール等ノ有力ナ

館使大本日國佛在

ル大臣カブリアンノ政策ニ反對シタリト傳ヘラレ四圍ノ形勢ブリ
アンニ不利ナリシハ言ヲ俟タスト雖同時ニ大統領ノ威力モ暗々裡
ニ閣議ノ決定ヲ左右スル力アリタルヘキハ想像ニ難カラス他方巴
里ノ新聞紙ハ議會ノ意見ヲ支持シテブリアン内閣反對ノ聲益々旺
盛ナ^ルニ至レリ
一月十日上院外交委員會ハ前掲賠償問題ノ篇ニ掲記セル決議ヲナ
シ下院財政委員會モ亦翌十一日略同様ノ決議ヲ爲セルヲ以テブリ
アンハ最高會議半ハニシテ十二日朝巴里ニ歸リ直チニ閣議ニ參加
セリ
然レ共新聞紙議會ノ大勢ハ共ニブリアンヲ離レテ閣議モ遂ニ收拾
ノ餘地ナク首相ハ午後三時下院ニ臨ミ自己カカンヌニ於テ取レル
政策ノ決シテ誤ラサルヲ辯明シタル後内閣員一同ト共ニ辭表ヲ提
出セリ
ブリアンカ議會ニ於テ内閣ノ信任投票ヲ俟タス辭任シタルハ反對

館使大本日國佛在

黨ヲシテ意見ヲ議會ニ發表スル機會ヲ失ヘンメ以テ後繼内閣ノ組
織ヲ困難ナラシメン魂膽ナリトテタルヂユ一^ニ派ノクレマンソ
直系政治家ハ之ヲ非立憲的行動ナリト攻撃シタリ但シ議會ノ形勢
ノ不穩ナル場合ニハ不信任投票ヲ俟タス掛冠スルノ例ハブリアン
内閣ノ末路ニ珍シカラス寧ロ其慣用手段タリ又社會黨ノ一部機關
紙ハブリアンノ辭職カカク迅速ニ行ハレタルハ大統領ノ壓迫ニヨ
ルモノニシテブリアンヲ倒セルモノハ議會ニ非ス大統領ナリトノ
記事ヲ掲ケテミルランヲ攻撃スルモノアリ議會ノ内部ニ於テモ現
大統領カ政務ニ容喙スル慣例ヲ作レルヲ以テ佛國憲法ノ精神ニ反
スルモノトシ陰ニ之ヲ不快トスルモノアリ他日議會ノ多數黨カ顛
覆シテ國民團結カ少數黨トナルカ如キ場合ニハ大統領ト政府トハ
絶ヘス意見ノ軒格ヲ生ジ政務ノ運行圓滑ナルヲ得サルヘシト憂フ
ル者尠カラス果シテ如斯キ杞憂カ事實トシテ現レ來ルヤ否ヤハ之
ヲ後日ニ徵スルノ外ナシ

在佛國日本大使館

(七)ポアンカレ内閣ノ成立及其政綱
ブリアン内閣辭表ヲ提出スルヤ大統領ハ直チニ上下兩院議員ヲ召集シテ後繼内閣組織ニツキ協議スル處アリタリ後繼内閣ノ首班カ何人タルヘキカニ就テハ既ニ數ヶ月以前ヨリ種々ノ風評アリ或ハ下院議長ラウル、ペレヲ推ス者アリ上院議員ジョナールヲ適任トスル者アリ然レ共世評ハポアンカレノ推薦者多數ナルヲ是認セリ
ポアンカレ内閣組織難ヲ主張スル者ハ第一ニ彼カ賠償問題ノ決定ニ際シミルラント衝突シタル事實ヲ舉ケミルランハ到底彼ヲ首相トスルヲ肯ンセサルヘント云ヒ又他方彼カマタン、タムノ兩新聞ルビユ、ド、ドウモンドノ寄稿家トシテ殆ント每週政治評論ヲ執筆シ而モ其意見ハ多クロイド、ジョージ反對ニシテ英國側ノ同情ヲ失セル事實ヲ舉ケタリサレト其識見精力ハ議員政客ノ群ヲ抜キ戰前戰後ノ内外政務ニ通曉セルコト又彼ニ比スヘキ者ナキ今日上下兩院ノ議長カ期セスシテポアンカレヲ後任首相ニ推薦セルコ

在佛國日本大使館

ト固ヨリ當然ノ歸結ナリ
ブリアン内閣ノ後期盛ンニ内閣ニ突撃シタルクレマンソー直系ノ政治家タルデュ、クロツツ等カ全然後繼内閣組織ノ協議ヲ受ケサリシハ世評ノ芳シカラサルニ見テ必スシモ不思議トスヘキ點ナケン但シタルデュ、材幹ハ次第ニ認識セラレツツアルヲ以テ必ス佛國政界ニ於ケル第一人者タルノ日アルヘジ
ポアンカレハ十二日夕刻大統領ヨリ内閣組織ノ委託ヲ受ケ其回答ヲ留保シテ政友ト協議ヲ初メタルカ翌十三日午後正式ニ内閣組織ヲ承諾セリポアンカレ最初ノ希望ハ社會黨、共產黨及王黨ノ左右兩極ヲ除ク外議會各派ノ領袖政客ヲ網羅シテ所謂國民聯合党内閣ヲ組成スルニアリシ由ナルモ上院ノ *Dumaine* 辭去シ下院ニテ *Viviani*, *Garbier* 及急進共和派ノ幹部タル *Henriot* 拒辭シタル爲其所期ノ目的ヲ達スルコト能ハス十五日ニ至リ前内閣員バルツ、副總理トシテ左ノ顔觸ニ基キ新内閣ヲ組織セリ

館使大本日國佛在

内閣副議長兼司法大臣 兼アルザス・ロレーン大臣 <i>Vice-Président, Justice et Alsace et Lorraine</i>	代議士	バルツィー (前陸相)
内務大臣 <i>Intérieur</i>	代議士	モリス・モーヌリー <i>Maurice Maunery</i>
大蔵大臣 <i>Finances</i>	代議士	ド・ラヌティリー <i>De Lasteyrie</i>
陸軍及年金大臣 <i>Guerre et Pensions</i>	代議士	マジノール (留任) <i>Majinot</i>
海軍大臣 <i>Marine</i>	代議士	レイベルチ <i>Raiberti</i>
農務大臣 <i>Agriculture</i>	上院議員	シエロン <i>Sieyon</i>

館使大本日國佛在

労働大臣 <i>Travail</i>	上院議員	アルスール・スピロンネ <i>Albert Peyronnet</i>
文部大臣 <i>Instruction publique</i>	代議士	レオン・バラール (留任) <i>Leon Barand</i>
殖民大臣 <i>Colonies</i>	代議士	アルベール・サロト (留任) <i>Albert Sarraut</i>
工部大臣 <i>Travaux publics</i>	代議士	ルンロツター (留任) <i>Le Troquer</i>
商務大臣 <i>Commerce</i>	代議士	デオール <i>Dior</i>
荒地大臣 <i>Régions libérées</i>	代議士	レイベル <i>Reibel</i>
衛生大臣 <i>Hygiène</i>	上院議員	ポール・ストラウス <i>Paul Strauss</i>

館使大本日國佛在

右ノ顔觸ニヨリ年金省ヲ廢シテ陸軍省ニ合併シ尙四名ノスイスタ
レテイル、デタヲ廢止シテ行政整理ノ一端ヲ示セリ
新内閣閣員ハ左右ノ兩極ヲ除ク外上下兩院ノ各派ヨリ數名ノ大臣

スイス Suisse 内閣 à la Présidence du Conseil	代議士 コルラ Chlat
商船 à la marine marchande	代議士 リオ Rio
郵便電信電話 aux Postes et Télégraphes	代議士 ポール・ラフォン Paul Lafont
専門學務 à l'Enseignement Technique	代議士 ガストン・ヴィダル Gaston Vidal
航空 à l'Aéronautique	代議士 ローラン・エイナツク Laurant Eyraud

館使大本日國佛在

ヲ撰擇シタルモノナルモボアンカレ以外ニハ特ニ傑出シタル名士
ヲ包有セス
新内閣ハ一月十九日上下兩院ニ於テ大要左ノ通り其政綱ヲ發表セ
リ
現内閣ハ平和條件ヲ規定セル諸條約ヲ尊重シ之カ履行ヲ確保ス
ルノ外他意ナシ而シテ目下ノ急務ハ財政整理、國防組織、兵役
年限短縮及社會政策的設備是ナリ財政ノ改革ハ戰爭ニ依リ攪亂
セラレタル財政ヲ整理シ課稅ヲ徵收シ行政整理ヲ行フニアリ而
モ吾人如何ニ努力スルモ獨逸カ其義務ニ從ヒ賠償ヲ支拂フニア
ラスンハ佛國財政ヲ難境ヨリ救フコト難シ今ヤ佛國ヲ目シテ帝
國主義ヲ奉シ私カニ禍心ヲ抱藏スルモノノ如ク宣傳ヲ行フ者ア
ルモ全ク當ラス是レ大戦ノ犠牲ト平和ヲ購フノ如何ニ高價ナル
カヲ思ハサル者ノ言ナリ吾人ハ只列國ト共ニ締結セル條約ヲ尊
重シ吾人カ當然受取ルヘキ權利アル支拂ヲ要求スルニ過キス

在佛國日本大使館

獨逸ハ支拂不能ヲ唱フルモ其輸出貿易及海外企業ヲ獎勵シ其會社ハ多天ノ配當ヲ爲シ國內製造業ハ繁榮シ其經濟力ハ益々發展シツツアリ獨逸政府ハ破産ニ頻セルモ國民ハ富メリ而シテ國家ノ負債ヲ保證スルモノハ全國民ノ資産及收入ナルコトヲ忘ル可ラス佛國ハ歐洲並ニ全世界カ可成速カニ其困窮ヨリ脱センコトヲ熱望スルモノナレ共一般的經濟復興ニ付テハ特ニ獨逸ヨリ最初ニ攻撃ヲ蒙リタル佛白兩國ノ荒廢地ノ復舊ヲ急務トス是レ獨逸ノ他ノ問題ヲ凌駕ス若シ獨逸カ其義務ヲ怠ラハ吾人ハ先ツ獨逸ノ豫算紙幣發行並ニ其輸出貿易ニ對シ嚴格ニシテ有效ナル監督方法ヲ執ラサル可ラス

獨逸カ條約ニ定ムル軍備ノ撤廢ヲ怠リ戰爭責任者ノ處罰ヲ履行セサル場合ニハ其不履行ニ對シ當然制裁ヲ加フル權利ヲ保持スル耳ナラス前記ノ條約不履行ノ存スル間ハライン左岸ノ占領期

在佛國日本大使館

間ハ其時効ノ進行ヲ開始セザルモノナルコトヲ宣言ス而シテ此見解ハ佛國政府ノ常ニ維持スル處ナリ

聯合國トノ協調ハ忠實ニ之ヲ保持スルニ努メ從來誤解ヲ受ケタル事件ヲ審議シ直ニ之カ解決ニ努ムヘシ平和ノ保證ハ共通ノ利害ニ基キ協同シタル「小協商」ノ如キ其最モ有效ナルモノニシテ右協約ノ成立ニ對シテハ佛國ハ之ヲ歡迎シ信實ナル同情ヲ以テ其發達ヲ注視セントス

佛國政府ハ又一層熱心ニ國際聯盟ヲ支持スベシ「ゼノア」會議ニ付テハ細目ノ討議ニ先立チ諸國代表者カカンヌ決議ノ各條件ヲ承諾スルヤ否ヤヲ明白ニシ又平和諸條約ノ規定ハ同會議ニ於テ毫モ動カス可ラサルコトヲ主張セントス苟クモ前記ノ保證ヲ得サル限り吾人ハ自由ニ進退ヲ決スルノ止ムヲ得サルニ至ルヘシ吾人ハ又平和保證ノ條約速カニ英佛間ニ調印セラルルコトヲ希望ス而シテ右條約ハ兩國カ全然均等ノ立場ニ於テ締結セラルルヘク

在佛國日本大使館

又現在及將來ニ亘リ充分條約上ノ保證ヲ履行シ得ヘキモノタルヲ疑ハス土耳其及希臘ノ争鬭ニ對シテハ英伊兩國ト協議シテ之ニ調停ノ勞ヲトリ東方問題ノ解決ニ付テハ佛土協約ノ利益ヲ實現シ以テ歐洲ノ平和克復ニ努力スヘシ如此シテ吾人ハシリイニ於ケル委任統治ノ任ヲ果タスコトヲ得ヘシ
吾等ハ人類ノ權利擁護ノ爲ニ共同ノ敵ト戰ヘル同盟諸國殊ニ米國トノ友好關係ヲ一層確實ニ保持センコトヲ希フ吾同盟國ニ對シ直裁ト友情トヲ以テ之ニ臨ムハ勿論ナルモ佛國ノ利益擁護ノ爲ニハ確乎タル態度ニ出サルヲ得ス此點ニ就テハ時局多難ノ際議會一致ノ援助ヲ與ヘラレンコトヲ望ムモノナリ
ボアンカレ内閣ニ對スル世評ハ概シテ良好ニシテ保守的傾向ヲ有スル新聞(デバ。エコー。ド。パリオ。フィガロ。ゴロア。ラクシヨン。フランセ。イズ等)及報道新聞(例ヘハジュールナル。マタン。プチ。パリジアン等)ハ概ネ之ヲ歡迎シ急進共和黨ノ一部(ル

在佛國日本大使館

ヴル。レイル。ヌイヴエル)ハ敵意ヲ含ム意味ノ傍觀的態度ニ出テ社會黨及共產黨ハ矯激ナル文字ヲ^引ネテ帝國主義好戰的政府ナリト罵倒セリ
新内閣ノ發表シタル前掲ノ綱領ハ千九百二十年ノ初頭ミルラン内閣ノ發表シタル聲明ト酷似セルヲ想起セスンハアラス對獨條約ノ嚴格ナル履行ヲ求メ獨逸ノ條約不履ニ對スル制裁權ヲ主張シライ^行ン左岸占領期限ノ延長ニ言及スル等悉クミルラン内閣ノ聲明ト同一轍ニ出ツ然レ共問題ハ果シテ新内閣カ一九二〇年ノ初頭ニ立歸リブリアン内閣ニ發源セル對英對獨妥協政策ノ潮流ヲ極止メ得ヘキヤ否ヤニアリ
ブリアンカ輿論ニ制セラレテ終始英國ノ政策ニ反抗、抑止ノ態度ニ出テツツ尙且結局ロイド、ジヨージノ主張ニ伴隨セサルヲ得サリシ狀態ハ佛蘭西人ノ尤モ癪ニ障リシ點ニシテ軍備制限案ニ對スル反對モ經濟復興會議ニ對スル留保モ悉ク此感情論ヨリ出發シ英

在佛國日本大使館

佛協定案ニ對スル一時ノ反抗モ要スルニ其卷添ヘナリ
ブリアン内閣ヲ交迭セシムルコトハ必スジモ根本ヨリ其政策ヲ立
テ直サント企圖セルニハ非スブ内閣カ英國トノ折衝ニ於テ終始受
身ニ立チテ一步一步ニ佛國ノ要求ヲ讓步セサル可ラサル態度ニ肝
癢玉ヲ破裂セシメタルコト今回政變ノ原因ナルヘクブリアンヲ一
蹴シ去リタル其瞬間ニハ佛國議會カ佛蘭西人ニ尙獨力自己ノ政策
ヲ主張スルノ勇アルヲ示シ佛國政府ハ常ニロイド、ジヨージニ危
隨スルモノニ非サルノ概ヲ示シタルモノトシテ所謂軟弱外交打破
ノ爲ニ博手喝采シタルモノノ多カリシハ否ム可ラサル事實ナリ
然レ共ボアンカレカ政府ニ立ツトモ其實際政策ハ從來ブリアンノ
取り來レル政策ト果シテ何程ノ相違アルヘキヤ一部ノ論者(ラク
シヨン、フランセ、ズノモ、ラス等)ハボアンカレカ在野政治家
トシテ發表シタル公約ニ背馳スルコト不能ナルヘシト云ヒ他ノ論
者(リベルテ)ハボアンカレカ内閣ニ立ツニ及ヒテハ世界ノ大勢

在佛國日本大使館

ト四周ノ狀況トニ制セラレ結局前内閣ト略同様ノ政策ニ出ツルノ
外ナカルヘク唯其間ニ多少強硬ナル外交振ヲ示ス位ノ程度ナルヘ
シト豫測スルモノアリ若シ強イテ其間ニ差異ヲ求ムレハ新内閣ハ
ブリアンノ如ク獨逸ノ現政府ニ條約履行ノ誠意アリトハ認メ居ラ
ス又多少ノ犠牲ヲ拂フモ英國トノ協調ヲ保ツノ必要アリトノ政策
ハ新内閣ニ至リ寧ロ大陸ノ諸同盟國ヲ糾合シテ獨逸ニ當ラントス
ル政策ニ變レリトモ認メラレサルニ非ス而シテ賠償問題、ゼノア
會議、英佛協約等ノ時事問題ハ前掲内閣ノ聲明セル趣旨ニ從ヒ多
少ノ改變ヲ加ヘテ前内閣ノ遺業ヲ襲踏スルノ外ナカルヘシ佛國政
變ノ帝國ノ利害ニ及ホス影響ニ至リテハ概括的ニ之ヲ洞察スルコ
ト難ク個々ノ事件ニ對スル新政府ノ意嚮(例ヘハ印度支那關稅問
題等)ニ付テハ暫ク時ヲ籍スニ非レハ明白ニスルコト能ハサルヘ
キナリ